

フレームワークの進め方について

文化ボランティア コーディネーター 柴田 英杞氏

《タイムスケジュール》

- | | |
|---------------|--|
| ① 討論会 | 14:20～15:00 |
| ② 巡回（ワールドカフェ） | 15:00～15:30 |
| 巡回の順は | A班 ⇒ B班 ⇒ C班 ⇒ D班
E班 ⇒ F班 ⇒ G班 ⇒ H班 |
| ③ 振り返り | 15:30～15:55 |
| ④ バザール | 15:55～16:15 |

これからの「とことん討論会」の進め方について、説明します。

座席は、受付でもらわれた席に座っていただく指定席です。最初に14:20から40分は、討論会をお願いします。自己紹介から始めてもらい、班のメンバーが打ち解けたところで、本日のテーマ「若者と文化ボランティア団体の出会い・・・」について、意見を深めてもらいます。その後15:00からワールドカフェ。

ワールドカフェは、ファシリテーターを一人残して、メンバーが旅に出ますが、上の「巡回の順」で3回行くと元に戻りますので、10分位ずつで行ってください。

ファシリテーターは、他班からの訪問者に「どういう討論を行った」かの情報提供をしていただきます。終わったら、15分間、振り返りの時間を取ります。

この振り返りは、非常に重要な時間で、ファシリテーターが他の班の情報を知らないで、巡回した人が「他の班では、こうだった」という情報を提供するとともに、我が班も「これこれの情報を取り入れるべきではないか？」との討論を重ねる時間とします。

その検討結果を、テーブルの上にあるワークショップグッズにまとめてもらい、最後に、バザールの時間です。この時間は、各班の成果を書いた付箋をペタペタと貼り付けた模造紙を、会場の壁に一斉に貼り出して、全員で成果物を見ながら他班の討論結果を学ぶ時間です。

その後、藤原さんと柴田のコメント・まとめを申し上げて、今日のフォーラムを終わりにしようと考えています。

ファシリテーターは、とびうめの会の方に司会進行を兼ねお願いいたしますので、ご協力ください。

まず、模造紙にサインペンで、グループ名、参加者名を書いてください。

次にフレームワークとして、3つのそれぞれクロスした楕円形を書いていただき、3つの領域に **Will** と **Can**、**Must** と書いて下さい。

これら3つの領域に、個人それぞれが思い当たるところを付箋に書いて、ペタペタと貼って行きます。同じ意見があれば、まとめ、整理をしていただきます。

Will、Can、Must 分析法

Will（将来像）・・・自分たちは、こういうボランティアを目指したい。

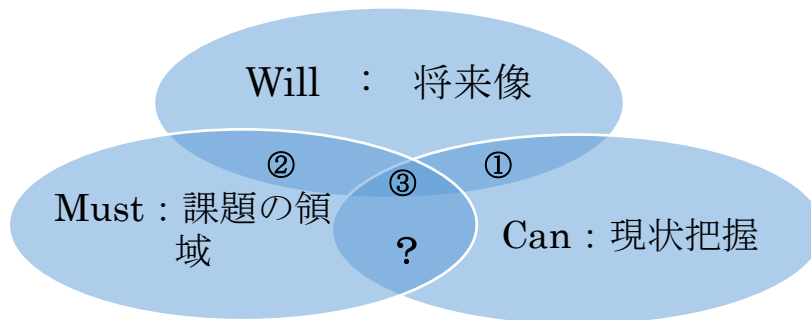
今の姿ではなく、将来、あるべき姿を記述する。

Can（現状把握）・・・自分の団体は、どんな状態なのか、実践できて

いることを記述する。

Must（課題の領域）・・・今、課題に対して実践しなければいけない、と

思っているが、なかなか何かの事情で取り組めてないことを記述する。



楕円の交錯する部分で

- ① Will と Can の部分 : 強化
- ② Will と Must の部分 : 改善
- ③ Will と Can、Must 3つの重なる部分 : 課題解決

上図の Will と Can の交わったところが、将来もっと強化していかなければならないところ、「強化の領域①」です。次に Will と Must の交わった領域ですが、Must は実践しなければいけないところで取り組めていないので、将来に向かって、何らかの形で改善・努力していかなければならないところで、「改善の領域②」です。

Must と Can の交わる場所は、クエスチョン(?)マーク、怠慢ゾーンといわれるところで、本当は出来るのだが、やらない、やりそびれているところで、一番大きな課題です。この3つの楕円が交わったところが、将来、絶対にしなければならないところで、「課題解決③」です。

文化ボランティア団体も、若い人が少ないのが現状です。

「若者をどうやって活動の場に引き込んでいくのか?」「どうしたら良いのか?」その解決策をめざして討論してみてください。

今朝からの柴田の講演や、実践的にご自身でボランティア活動をやりながら研究者として、ボランティアのいろいろな動態調査を行っておられる藤原さんの報告、また、3つの事例報告からも有意義な情報が盛り沢山でしたので、それらの資料や情報を駆使しながら各班で挑戦してみてください。

この方法は、Will、Can、Must 分析法といって、かなり議論が深まり、良い結果が期待されますので、結果を楽しみにしています。